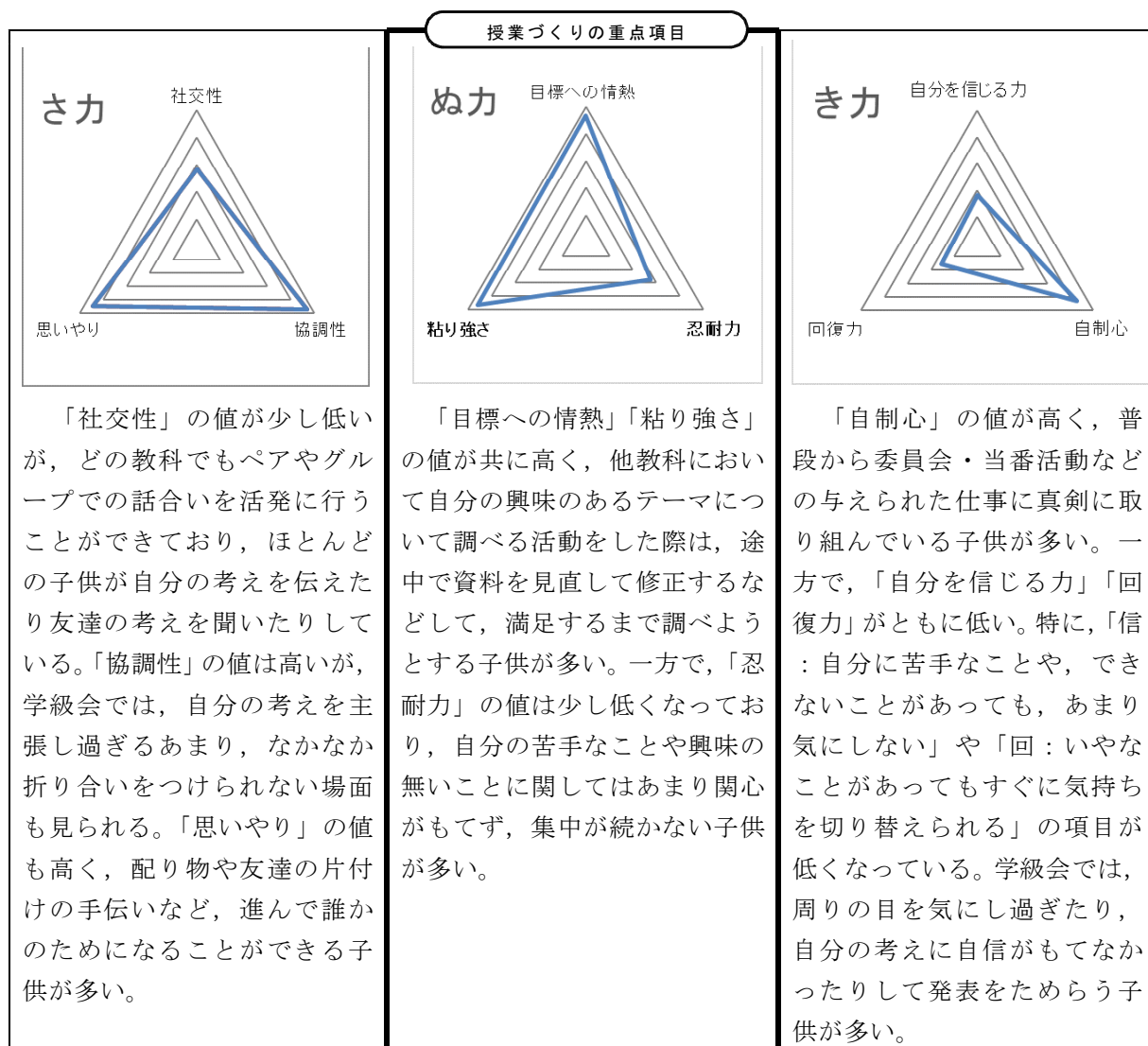


1 さぬき力（非認知能力）に関する子供(34名)の実態



2 教科等に関する子供の実態

- ・クラス全体に関わることを学級会で話し合うのは必要だと思いますか。（肯定的34名、否定的0名）
- ・学級会で自分の意見を発表することは好きですか。（肯定的21名、否定的13名）
- ・屋島集団宿泊学習を楽しみにしていますか。（肯定的28名、否定的6名）
- ・屋島集団宿泊学習で不安なことはありますか。（ある14名、ない20名）

クラスの「友達関係」に関する追加アンケートを取ったところ、今の「友達関係」の状態です屋島  
集団学習を迎えることに不安を感じているのは17名であった。

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…学級会の意義や必要性は感じており、自分の考えをもつことはできている。しかし、考えたこ  
とを伝えることに苦手意識があるため、全体で発表することは少ない。グループで話し合う場  
面では、自分から発言することは少ないが、周りの友達が促すと、自分の考えを伝えることが  
できる。

# 第5学年東組 学級活動（1）学習指導案

## 「認め合い、譲り合って心を一つに」

学習指導者 東 泰右



### 1 本学級会で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【授業の詳細】

屋島集団宿泊学習についての事前アンケートの結果から、学級の半数以上が何らかの不安を抱えているという現状を知った子供たちは、屋島集団学習までに自分たちで話し合って解決できるものとして、「友達関係についての不安」に着目し、学級の実態を振り返る。「全員が安心して屋島集団学習を迎えられるようにしたい」という思いをもった子供たちは、「友達との仲を深めるためにどんな取組ができるか」という議題を設定し、学級会で話し合っていく。話し合いの場面では、「友達との仲が深まること」を前提として考えられた複数の取組を、関わるができる人数、必要な時間、メリット・デメリットの観点で比較し、取組に使える時間である2時間に収まるように、実践する取組を選んでいく。そして、「活動班で『他己紹介ゲーム』をすると、同じ班の友達ともっと仲良くなれると思うよ」「確かに。じゃあ、『よいところ見付け』と合わせて、紹介する時にその友達のよいところも伝えるようにしたら、もっと仲良くなれるんじゃないかな」「なるほど。それだと、時間もあまり変わらないし、簡単にできそうだね。他にはどんな取組ができるかな」などのように、観点ごとに比較しながら実践する取組を絞り込んだり、複数の取組を合わせたり、新たな取組を生み出したりしながら、全員が納得できる解決方法を考えていく。このような話し合い活動を通して、話し合うことよさや必要性を感じた子供たちは、屋島集団学習以外の場面でも同様に、学級や自己の生活、人間関係をよりよくするための課題を見いだし、それを解決しようと話し合っていくであろう。

### 2 本学級会前後の計画と働きかけの概要

	本学級会前後の計画	本学級会における働きかけ
事前	<p>○学級活動の時間に、事前アンケートの結果を確認し、屋島集団学習への不安要素について知る。その中から、自分たちで話し合って解決できるものは何かを考えることで、「友達関係についての不安」に着目し、学級の実態を振り返る。そして、「全員が安心して屋島集団学習を迎えられるようにしたい」という思いをもった子供たち、「友達との仲を深めるためにどんな取組ができるか」という議題を設定する。その後、それぞれが考えた友達との仲を深めるための取組を意見カードに書き、学習支援アプリに集約する。</p> <p>○計画委員会で、学習支援アプリに集約された取組を確認した後で、話し合いの進め方や取組を比較する観点などを決めておく。</p>	<p><b>見通し</b> 情【メニュー確認タイム】</p> <p>議題と提案理由について確認し、本議題について話し合う意義を感じられるようにする。</p> <p>◎振り返り場面において、積極的に学級会へ参加できていたことを教師が称賛する。</p> <p><b>行動</b> 協【比べて納得テーブル】</p> <p>話し合いの中で出た意見を観点ごとに表に整理することで、それぞれの取組のよさを視覚的に比較できるようにし、友達の考えを受け入れたり、全員が納得できる解決方法を考えたりできるようにする。◎振り返り場面において、お互いの考えのよさを認め合うことで納得のいく話し合いができたことを称賛する。</p>
学級会	<p><b>「友達との仲を深めるためにどんな取組ができるか」</b></p> <p>○議題について、観点を基にそれぞれの取組を比較しながら話し合い、合意形成を図る。</p>	<p><b>振り返り</b> 信・回【リフレクションタイム】</p> <p>「学級会への参加度」や「次の学級会で頑張りたいこと」について振り返る時間を設ける。◎本時上手くいったことを基に、次の目標を見いだしていることを教師が称賛する。</p>
事後	<p>○決まった取組を屋島集団学習までの期間に実践する。</p> <p>○屋島集団学習の後に、実践の成果と課題を振り返り、今後の課題解決に生かしていく。</p>	<p>「参加度」を低く自己評価した子供がいた場合は、グループごとにお互いの頑張りやできていたことを伝え合う時間を設ける。◎他者評価により、学級会に参加できていたことを感じられるようにする。</p>

3 本時の学習

目 標	友達との仲を深める取組について自分の考えをもち、合意形成に向けて話し合うとともに、話し合う意義を見いだすことができる。
--------	---

学習活動と働きかけ	主な子供の意識
見 通 し  【目標への情熱】 【メニュー確認タイム】	<p>1 話し合いの進め方や議題、提案理由を確認する。</p> <p>屋島集団学習についての不安の中で、自分たちで話し合っ解決できそうなのは、「友達関係」についてだったね。</p> <p>今のクラスの「友達関係」を振り返ると、まだ少し不安があるな。</p> <p>みんなで話し合っ決めた取組を実践すると、屋島集団学習への不安が減っ、全員が安心して臨めるようになると思うよ。</p>
<b>友達との仲を深めるためにどんな取組ができるか</b>	
行 動	<p>2 それぞれの取組のよさを出し合い、表に整理する。</p> <p>他己紹介ゲームがいいと思うな。改めてお互いのことについて知ると、もっと仲良くなれると思うからだよ。</p> <p>活動班でチームを作って、班対抗のドッジボール大会をするのはどうかな。チームで協力できるよさがあるよ。</p> <p>班ごとに、友達のよいところ見付けをしたいな。よいところを伝えてもらおうと嬉しいし、安心できると思うよ。</p> <p>他己紹介は事前の準備もいらないし、これまでの学年でもやったことがあるから、すぐにできそうだね。</p> <p>身体を動かす遊びの方が、やっていて楽しいし、みんな盛り上がると思うよ。</p> <p>運動が苦手な人もいるから、ドッジボール大会は少し難しいんじゃないかな。よいところ見付けならみんな参加できるよ。</p>
3	<p>表を基に、解決方法について話し合う。</p> <p>(1) グループ (2) 全体</p> <p>それぞれの取組のよさがよく分かったよ。全員が納得できるような、よい解決方法はないかな。三つの技を意識しながら、近くの人と相談してみよう。</p> <p>他己紹介とよいところ見付けは、メドッジボール大会をみんなが楽しめるリットがよく似ているよ。二つの取組のよいところを合わせても、時間が増えることはないと思うよ。</p> <p>ドッジボール大会をみんなが楽しめるレクリエーション大会に変えたら、クラス全員が楽しめるようになるから、もっと友達との仲が深まると思うよ。</p> <p>他己紹介とよいところ見付けを合わせたゲームをしよう。残りの1時間で、班対抗のレクリエーション大会ができそうだね。</p>
振 り 返 り	<p>4 振り返りを行う。</p> <p>安心して屋島集団学習に向かうために、たくさんの人が納得できる解決方法を考えることができたよ。</p> <p>グループの時に友達と話し合うことはできたけど、全体で自分の考えを発表することはできなかったよ。</p> <p>次の学級会でも、友達とたくさん話し合いながら、よい考えを出すぞ。</p> <p>発表はできなくても学級会に参加できていたんだな。次も頑張るぞ。</p> <p>今日決まったことを実践して、友達との仲を深めていこう。</p>

評 価	合意形成に向けて、三つの技を意識しながら、全員が納得できる解決方法を考えたり、友達の考えのよさに目を向け、それを受け入れたりできている。そして、話し合うことのよさや必要性を感じている。 <span style="float: right;">【方法：発言・様相・アンケート】</span>
--------	---

## 働きかけの詳細資料

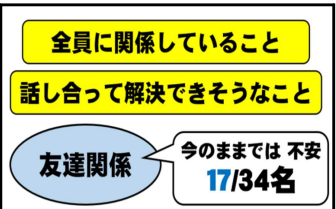
### ～事前の活動～

「友達との仲を深めるためにどんな取組ができるか」という議題について、全員が意見カードを書き、それを学習支援アプリに集約しておく。

司会グループと教師で行う事前の計画委員会では、集約された意見カードを確認し、「友達との仲が深まること」を前提とした取組であるか、まとめられるものはないかを考える。そして、それぞれの取組をどのような観点で比較すればよいかを話し合い、決めておく。

### ～見通し～ **学習活動1** 情【メニュー確認タイム】

学級会の初めに、司会が中心となって今日の話合いの流れや議題、提案理由を全体で確認する時間を設ける。その際、大型モニターに資料を映しながら、本議題の設定までの経緯を確認していく。その後、教師が、「今日の学級会で友達との仲を深める取組を決めて、それを実践するとどんなよいことがありますか」と問うことで、「友達との仲が深まって、全員が安心して屋島集団学習を迎えられるようになる」などと、本議題について話し合う意義を感じながら学級会に臨めるようにする。そして、振り返り場面において、話合いの目的を意識しながら学級会に積極的に参加していたことを称賛し、「目標への情熱」の自覚度を高める。



【提案理由の資料の一部】

### ～行 動～ **学習活動2・3** 協【比べて納得テーブル】

話合いの場面では、屋島集団学習までの期間で取組に使える時間である2時間に収まるように、実践する取組を選んでいく。その中で出た意見を、関われる人数、必要な時間、メリット・デメリットという観点で「比べて納得テーブル」という表に整理していくことで、それぞれの取組のよさを視覚的に比較できるようにする。これにより、自分の考えに固執せず、友達の考えのよさにも目を向け、それを受け入れられるようにする。また、これまでの学級会でも用

他己紹介 ゲーム	班対抗ドッジ ボール大会	よいところ 見付け	聞かれる 時間 必要な
☑ クラス全員	☑ 同じ班の友達	☑ 同じ班の友達	時間 必要な
☑ 1時間	☑ 1時間	☑ 20分	メリット・デメリット
☑ お互いのことをよく知れる ☑ これから仲良くなるきっかけができる	☑ チームで協力できる ☑ 身体を動かすので盛り上がる ☑ 運動が苦手な人もいる	☑ 嬉しい気持ち ☑ 安心できる ☑ 今までにもやったことがある	

【比べて納得テーブル】

いてきた、三つの技（比べて選ぶ・よさを合わせる・新しいアイデア）という解決方法の手掛かりを示すことで、全員が納得できる解決方法を考えられるようにする。そして、振り返り場面において、友達の考えのよさを受け入れることで、納得のいく話合いができたことや、全員が納得できる解決方法を考えようとしていた姿勢を称賛し、「協調性」の自覚度を高める。

また、自分から友達に考えを伝えることに苦手意識のあるA児には、「Aさんはどんなことを考えたの」などと、友達に尋ねながら話合いを進めることができる子供と同じグループになるよう座席を配慮する。そして、グループで話し合ったことにより自分の考えに自信をもち、発表できるようにする。

### ～振り返り～ **学習活動4** 信・回【リフレクションタイム】

話合いの後に、学習支援アプリのアンケート機能を用いて、「話合いの進め方について」「決まったことについての納得度」「学級会への参加度（自分の考えをもてたか・考えを友達に伝えられたか・聞き方や態度はよかったか）」「次の学級会で頑張りたいこと」を記述する時間を設ける。振り返りの記入後に、「目標への情熱」「協調性」の価値付けを行う。そして、本時上手かったことを基に、次の目標を見いだしていることを称賛することで、「自分を信じる力」を発揮していることを自覚させる。また、「参加度」を低く自己評価した子供がいる場合は、発表ができなくても、グループで自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりすることで学級会に参加できているということを全体で再度確認する。その後、グループごとに、お互いの頑張りやできていたことを伝え合う時間を設けることで、学級会に参加できていたことを感じられるようにし、「回復力」を発揮していることを自覚できるようにする。



【振り返りアンケートの結果】